

「SDGsの課題解決と創造への同窓会連携の可能性

～“繋がりソフトインフラ”として、課題解決・産学連携・人材育成に貢献～」



2024年6月2日（日） 13時～15時40分

■場 所：横浜市立大学みなとみらいサテライトキャンパス（横浜ランドマークタワー7階）

■主 催：横浜市立大学同窓会〔浜大会〕

■協 力：横浜市立大学（YCU） 横浜6大学同窓会交流会

■後 援：横浜市（SDGs未来都市推進）、神奈川新聞社、ヨコハマ経済新聞

このシンポジウムは、「SDGsの課題解決と創造への同窓会連携の可能性“繋がりソフトインフラ”」をテーマとして、横浜の同窓会交流会の関係者、横浜を超えた大学、海外（インド）の大学関係者にも登壇いただき、同窓会連携による、課題解決・産学連携・人材育成などの、現状・課題・可能性を探り、実践に繋げていくものです。

〔 内 容 〕

□開会挨拶と開催趣旨

●SDGs推進のための横浜市大同窓会の現状とさらなる連携

金子 延康（横浜市立大学同窓会〔浜大会〕会長）

つながりのソフトインフラとしての同窓会の活動（毎月のオンラインセミナー、毎年のシンポジウム開催）の紹介があり、SDGs 貢献活動としての海浜の清掃活動や環境団体等とのコラボ、そして、力を注いでいる学生支援活動等について、これまでの活動内容とその目的とするところについて話がありました。

そして、これからはこれまでの繋がりをもっと広げて、横浜6大学同窓会交流会との繋がり、さらに全国の公立大学同窓会との連携（公立大学同窓会ネット）をもとに、平和で持続可能な地球環境を見据え、豊かな人材が繋がる新たな関係を創りだしていこう、関係性の回復を目指していこうと日頃からの熱い思いが語られました。

□基調講演

●産学連携等、課題解決と創造のための同窓会の可能性

長谷部 勇一 氏（元横浜国大学長・横浜国大名誉教授）

丸山真男著『日本の思想』から「タコツボ」型社会と「ささら」型社会を比較し、繋がり の少ないタコツボ型社会ではなく、根底に共通の価値観やテーマを共有する対話型社会＝「ささら型」社会の重要性について語られました。

6年間の学長時代の経験から、大学はステークホルダーである同窓会や地域社会と繋がって いくことが不可欠であると強調されました。「大学の基本的ミッションとして、同窓会や地 域社会との関係強化に努め、地域や同窓会と協力していくことで、学生の評価を高めたり、大 学への寄付や企業等との共同研究、委託研究を増加させることができる」と。

様々な「課題解決のために大学がハブとなることによって、地域のニーズを踏まえた地元 の自治体や企業、住民と連携して課題解決に総合（文理融合）的に取り組み、地域コミュニ ティの再生に貢献することができる。地域の大学同窓会が連携することで、さらに若手中堅の卒 業生の関心を高めるのではないかと」

「従来の、大学が寄付やキャリア支援を求め、同窓会はそれに応えるという関係性から、 卒業生をステークホルダーとして連携していく関係、また、大学が実施する産官学連携に関す る情報を卒業生と共有する関係へと変えていくことによって、若手中堅の卒業生の共感を得て いくことができるのではないかと」と、考え方の創造を披露されました。

□招待講演

●持続可能な地球社会実現のための革新的政策への連携

上村 雄彦 氏（横浜市立大学 国際教養学部教授）

地球の気温の1.5度上昇まで、「残された時間はあと6年！」「6秒に一人の子どもが 死んでいる」など待ったなしの現状の解説のあと、何故いつまでも解決できずに手をこまねい ているのかの説明が続きました。問題の根幹は資本主義と主権国家体制にあり、その世界を支 配する少数の人々（トランスナショナル資本家階級）が保有する資金で、現状を変えることが できる！と力強い言。

どうすればいいか。簡単には行かないかもしれないが、世界中に変化の種を撒いている日本人がいます。ノーベル平和賞受賞者たちが立ち上がっています。世界政府の実現のために邁進している日本人たちがいます。

上村氏は現状を変えることが可能であることを強調し、「3. 5%の人が変われば、全体が変わるんです!」「夢を持つ!」「決してあきらめない!」と、熱いメッセージで講演を締めくくりました。

●インドの大学・企業・NGO との連携による課題解決と創業支援

川根 友 氏（慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 日印研究・ラボ主任研究員）

マハトマ・ガンジーの「塩の行進」の教えから、「同じ目線で、共生のために歩くこと」で見えてくる現場の課題や地域の現状、そして知る「（人としての）限界」についてのお話。いろいろな人たちと一緒に歩くことで学ぶであろう「競歩から共歩へ」の転換はこの時代に求められている価値観。

インドの「ジュガール（とにかくやってみよう）精神」と日本の「KAIZEN（改善）」、スタートアップ文化と廃棄物マネジメントなどを対比し、両国の学生が参加しコラボすることによって生まれるコミュニティのつながりや社会責任、啓発活動を示唆。

同窓会に当てはめると「共に歩みながら考えることでより良い未来に向けてのイノベーションを起こせるのではないか」、学生とコラボすることでコミュニティのつながりや社会責任、啓発活動を起こせるのではないかと提案されました。

●後援会・同窓会連携によるグローバル人材の育成

原口 淳 氏（横浜市立大学後援会会長・元コニカミノルタジャパン代表取締役社長）

「21世紀はどんな時代?」「AIはどこまで進化し、人間社会はどう変わるか?」「世界はどこに向かうのか?」

国力が低下し続ける日本における未来はあまり明るくはない。インバウンド経済（安い日本）、物価高、人財流出などが挙げられる。それらを解決するには、日本型循環社会への回帰、多世代共生社会の実現、平和国家としてのアイデンティティの確立と世界への発信、そして教育革命を行っていくことが喫緊の課題となっている。

これからのグローバル人材に求められる資質には、創造性とイノベーション、批判的思考力、コミュニケーション力、協働、情報リテラシー・ICTリテラシーなどがあり、若者にはローカルにグローバルに、社会的責任感を持って生きていける能力とキャリアが必要である。

中でも、「グローバル人材に真に必要なのは哲学」である。哲学を学びながら、グローバル人材に必要なものを身に着けていける「八景塾」を作りたい。そして、できれば茅葺の塾にしたい!と、笑いを取って熱さ200%の講演を閉められました。

□SDGsの課題解決と創造への同窓会連携の可能性
会場からの質疑と今後の方向について（略）
HP 掲載予定のアーカイブ（YouTube 動画）を参照してください。



□「同窓会連携宣言」
最後に浜大会金子会長から「同窓会連携宣言」を提案し、大きな拍手で承認されました。

YCU REUNION SDGsシンポ2024
SDGsの課題解決と創造への同窓会連携の可能性
～“繋がるの免疫系ソフトインフラ”として、課題解決・産学連携・人材育成に貢献～

同窓会連携宣言

平和・地球環境等のSDGs課題解決と創造
地球・地域の元気の実現に向けて
同窓会は相互連携し 関連団体と連携して
楽しく実践を進めます～❤️

◎司会 ・ 文責
西尾 留美子（横浜市立大学
同窓会〔浜大会〕事務局長）